

教育理念・目標

大学全体

専門の理論と応用を教授・研究し、併せて本学設立の趣旨である仏教、特に禅の精神を基とした人格形成に努め、知の実践と自己の把握により、感謝の心をもった社会人を養成して、広く各界に寄与し、人類の福祉と文化の発展に貢献します。

文学部歴史学科

愛知学院大学歴史学科は、「過去と現在との対話」を通して「歴史」に対する関心と理解を深め、歴史的現象の原因と結果に関する論理的な分析力、その本質に関する自由で豊かな洞察力、それを社会に発信するプレゼンテーション力といった総合的な「歴史力」の養成を行うことを教育理念とします。

本学科はこうした「歴史力」を現代社会の諸問題の理解や解決に必須の能力ととらえ、その育成を通して現代社会に貢献できる人材育成を行うことを第1の目標とします。また専門的研究分野の枠をこえて幅広い教養に支えられた世界史的で多元的な視野と人間性を育むことを第2の教育目標とします。

文学部日本文化学科

日本文化学科では、「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の4領域から日本文化について学び、それをさまざまな形で発信できる人材を育成します。日本文化学科の教育目標は、日本文化の諸領域の内に自ら課題を立て、それを解決できる能力を養成することで、社会に役立つ人材を育てることです。あわせて文化探求現場主義をモットーとして、座学のみならずフィールドワークも重視しています。

文学部英語英米文化学科

英語英米文化学科は、英語の実践的能力を涵養し、また英語圏の地域文化の専門的知識の教授に努めます。それと同時に、愛知学院大学の建学の精神にのっとった人格形成を目指し、教養教育との連携を深め、幅広い知識と実践力を備え、進んで社会的貢献のできる社会人を養成することを目標とします。

文学部グローバル英語学科

グローバル英語学科は、目的や職業分野に応じた実務的な英語運用能力を備えた人材の育成に主眼を置く「イー・エス・ピー」(ESP: English for Specific Purposes, 目的・職業別英語)の概念を基軸とした学科であり「国際ビジネス」「観光・航空」「通訳・翻訳」「英語教員養成」の4つの専門モデルを設置し、各専門分野で必要とされる知識・技能・英語力を養成することを目的としている。コミュニケーション英語を軸として、国内外の企業やグローバル社会が求める実務的で即応性のある英語運用能力を備え、世界中の人々と円滑で豊かなコミュニケーションを行うことができること、さらに幅広い教養や豊かな専門的知識を持ち、グローバルな立場で高度情報社会に対応することができる人材を育成することを目標としている。

文学部宗教文化学科

宗教文化学科は、本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を体現できる人間を育成することと、人類の叡智の所産である世界各地の宗教文化を教育・研究することを目的としています。そのため、広い視野を養ってグローバル社会に対応し、現代社会を生きぬく智慧ある人格と、社会的役割を担う人材を育成します。

商学部

本学の建学の精神「行学一体・報恩感謝」を体現するために、1958(昭和28)年にマザースクールとして誕生しました。そして実学としての商学を教授し、経済社会に役立つ有為な人材を育てることを教育目的としてきました。

さらに、2000(平成17)年度から新たに「ビジネスヒューマンバリューの創造」を教育目標として掲げました。「商学」は、ビジネスに関わる学問分野の総称ですが、近年ビジネスの中で忘れ去られてしまった考え方があります。それは経済活動・ビジネスを行う者は、欲望に従う単なる生物学的「人(man)」ではなく、こころ豊かな「人間(human)」として行動すべきことです。商学部では、従来型のビジネスマンではなく、ビジネスヒューマンとして正邪の判断を自らに課した上で、他者への思いやりや自然との共生、そして真の優しさに満ちた「人間としての価値(human value)」を創造し高めることを目標に、「ビジネスヒューマンバリューの創造」を掲げたのです。

また、2002(平成19)年度改革を契機に商学部の英語名称も、商学部の内実と時代の変化に合わせ、Faculty of CommerceからFaculty of Business and Commerceに改めたことを付記しておきます。

経営学部

地球規模での競争の激化、地球環境問題の深刻化、情報化の進展など、企業を取り巻く環境はかつてないほどのスピードと規模で変化しています。経営学部では、このような環境変化に対応するため、大学の建学の精神である「行学一体、報恩感謝」に加え、学部の教育理念である「理論と実践」のもと、新しい経営理論に基づく実践を重視した教育を行い、「企業経営を通じて社会に役立ち、自己実現できる人材の育成」を目標としています。

経済学部

経済学部の教育目標は、本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づいて、経済学の基礎および専門的な知識を幅広く学び、その実践的応用によって現代経済の構造変容の実態と新しい課題を自らの力で分析し、その本質を適確に把握し、課題解決のための適切な方法を構想しうる学問的基礎を備えた社会人を養成するとともに、それを通じて人間的共感と社会的公正を基礎とする、真に豊かで持続可能な経済社会の実現に寄与しうる社会人を育成することにあります。

法学部

愛知学院大学法学部は、大学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づき、法律学及び政治学の学修を通じて人格を陶冶し、豊かな人間性を涵養することを基本理念としています。この基本理念のもと、愛知学院大学法学部は、自らを支え育んでくれた他者や社会に感謝し、社会に貢献することができる有為の人物を育成する法学教育の実践を教育目標としています。

総合政策学部

建学の精神である「行学一体」、「報恩感謝」を具現化するため、広く世界・日本・地域の動きを視野にいれ、人々の生き方や社会のありように関心を寄せ、これからのあり方を考えるために必要な基礎的なリテラシーを土台に、主体的な問題意識と能動的な行動力を身につけ、幅広い教養と実践的な問題発見・解決能力をもった即戦力の社会人を育成する。

薬学部

豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を持ち、医療を協働の場として人々の健康維持と医療の発展に積極的に貢献し、共創を通じて未来を開拓する医療薬学専門人の養成を目指しています。

歯学部

歯学部の教育は、歯科医学・歯科医療・口腔保健向上の一躍を担うことのできる有能かつ倫理観を持った歯科医師の養成を目的としています。

そのためには、単に学識・技術を教授するのみではなく、臨床の場で効率的に展開できる実務的な能力を修得する必要があります。そこで、歯科医学に関わる基本的知識、科学的学識を十分に理解し、それに基づいた歯科医学的技法に習熟することが重要です。さらに倫理観を持った学識ある歯科医師として広い学際的教養を持つことが望まれますので、本学の建学の精神を十分に体得しなければなりません。

歯学部の教育は歯科臨床に携わる歯科医師を育成することを第一義としますが、単にそれのみでなく、21世紀に対応する優れた研究者、教育者、行政担当者など幅広い人材を育てるためにも、教職員一体となって広範な教育を施そうと考えています。